

公表 事業所における自己評価結果

事業所名	キッズルームレモン				公表日	令和8年 1月 30日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		活動に合わせて適切なスペースの確保を行っている。	現状を踏まえた上でより良い環境設定を検討していく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		配置基準を満たし、適切な人員が配置されている。	今後も適切な人員を配置し、継続していく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		玄関にはスロープがあり、室内に段差もなく広いトイレも設置してある。	今後もより良い環境設定を検討していく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎日、清掃と環境整備をしている。活動内容に合わせた空間になっている。	今後もより良い環境設定を検討していく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		子どもの特性や用途に合わせて個別に過ごせる部屋がある。	今後もより良い環境設定を検討していく。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		毎日のミーティングで日々の振り返りを通して職員間で共有し、全職員が意見交換をしている。	今後もミーティングでの情報共有を継続し、業務改善に努める。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		職員間で共有し、改善するために話し合いを行っている。	今後も保護者の意向を踏まえつつ業務改善に努める。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		ミーティングの中で出た意見について話し合い業務改善につなげている。	今後も継続していく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		保護者アンケート等のご意見を評価として結果を職員間で共有して支援内容や業務改善につなげている。	今後も継続していく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		外部の研修を受講したり法人内でも研修を開催している。	今後も職員の資質向上のために研修会への参加を継続していく。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		様々なニーズに合わせて支援プログラムを作成し、公表している。	今後もニーズを把握しながら支援プログラムの作成、公表を継続していく。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		支援記録や面談等を通してアセスメントを行いこどもや保護者のニーズを把握し、放課後等デイサービス計画を作成している。	今後も継続していく。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		支援会議で職員間の共通理解のもと、話し合い検討して放課後等デイサービス計画を作成している。	今後も継続していく。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		職員間で共有し、計画に沿った支援を行っている。	今後も継続していく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		こどもの適応行動の状況について標準化されたツールを用いたり、日々の行動観察や記録から総合的に確認している。	今後も継続していく。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		ガイドラインのねらいを踏まえた支援内容を放課後等デイサービス計画に設定している。こどもの発達段階や特性に合わせた具体的な支援内容となっている。	今後も継続していく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		様々なニーズに合わせて集団活動や小集団での活動を取り入れた活動プログラムを職員間で検討している。	今後も継続していく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		活動プログラムが固定化しないように日々見直しや工夫を行っている。	今後も継続していく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		ひとりひとりが参加できるように集団活動と小集団での活動を組み合わせ計画を作成し、支援を行っている。	今後も継続していく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		毎日ミーティングを行い、その日の支援について話し合いをして共通理解のもと、支援を行っている。	今後もミーティングを継続し、それぞれの役割を明確にして支援を実施していく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		振り返りについては次の日のミーティングで行っているが、支援の記録は支援終了後にとっている。	今後も継続し、職員間で共通認識を持ち、支援を実施したい。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		支援の記録は日々とっている。毎日のミーティングで支援の検証を行い改善につなげている。	今後も継続していく。

	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しを行っている。	今後も継続していく。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせる支援を行っているか。	○		複数の支援を組み合わせを行っているが地域との交流は検討中である。	地域との交流が図れるよう、実施を検討していきたい。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		写真や絵カードを使って選択肢を増やし、自己決定する力を育てるための支援を行っている。	共通の支援ツールが使えるよう、家庭や学校と連携を図っていきたい。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		関係機関との会議等には児童発達支援管理責任者等のこどもの状況をよく理解したものが参画している。	今後も継続して参加していく。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		医療機関との連携はあまりないが、障害福祉機関や学校と連携して支援を行う体制はできている。	現状を踏まえた上で今後も継続していく。必要に応じて地域の保健、医療機関とも連携していく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		学校や保護者との情報共有や連絡調整を適切に行っている。	今後も継続していく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		小学1年生で新規利用が決定したこどもに関しては利用している保育所や児童発達支援事業所と情報共有することがある。	今後も必要に応じて実施していく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		卒業生が障害福祉サービス事業所を利用される場合には放課後等デイサービスでの支援内容等の情報を提供することもある。	今後も必要に応じて実施していく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		地域の児童発達センターと連携し必要に応じて助言を受けながら支援に生かしている。	今後は研修等に参加を検討し、支援の充実につなげていく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○	他事業所の行事に参加した時に交流の機会があるが、一部のこどものみが参加している。	今後、利用者が落ち着いて過ごせる環境であれば地域との交流も検討していきたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		○	協議会等への参加はできていない。	今後は参加の必要性を踏まえ、可能な範囲で関わりを持てるよう検討していく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		日頃から保護者に子供の状況を伝えて共通理解を持っている。	保護者に寄り添い、安心して相談できる環境づくりを目指して今後も共通理解を図っていく。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○	保護者の就労状況等から日程の調整が難しく開催できていない。	今後、土曜日や祝日に他事業所と合同で行う等の検討をして開催していきたい。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		運営規定、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っている。	今後も継続していく。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		作成前には保護者との面談を通して家族の意向やこどもの最善の利益について確認している。	面談の時以外にも保護者に寄り添い、安心して相談できる環境づくりを今後も継続していく。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		放課後等デイサービス計画を示しながら支援内容の説明を丁寧に行い、同意を得ている。	今後も継続していく。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		家族からの悩みや相談に対して適切に応じ、必要な助言や支援を行っている。	今後も保護者が安心して相談できる環境づくりを目指して継続していく。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		保護者参加イベントの中で保護者会を開催して保護者やきょうだい同士の交流の場を設けている。	今後も保護者やきょうだい同士の交流の機会を増やすことを検討していく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情対応の体制を整備し保護者へ周知した上で、迅速かつ適切な対応を行っている。	現状を踏まえた上で今後も継続していく。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		保護者と情報共有アプリを通して日々のこどもの様子、活動プログラム、行事予定等を発信している。	今後も継続していく。アプリを見るのが難しい保護者には紙媒体でお知らせをしていく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報の取扱いについて職員間で共通認識を持ち、適切な管理を行っている。	今後も職員間での確認を継続し、より一層の徹底を図っていく。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		障害のあるこどもや保護者との意思疎通において、特性に配慮した情報伝達を行っている。	今後もより伝わりやすい方法を検討しながら対応していく。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		地域住民を事業所の行事に招待したことはないが、散歩等で顔を合わせた時には挨拶をしている。	今後、地域に開かれた事業運営を図るための行事を検討したい。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		事業所玄関に各マニュアル等を掲示している。毎月、発生を想定した訓練を行っている。	今後も継続していく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		業務継続計画を策定し、非常災害の発生に備えた避難訓練を行っている。	今後も継続していく。

非常時等の対応	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		利用契約時に服薬やこどもの状況をシートにまとめ、聞き取りもして確認している。	今後も子供の服薬や状況があった場合には保護者から教えていただき、その都度確認していく。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		現在、食物アレルギーのある子どもはいない。	今後、食物アレルギーの子どもがいる場合には医師の指示所に基づく対応をしていく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を作成し、研修や訓練を受講している。安全管理が十分された中で支援を行っている。	今後も継続していく。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		災害が起こりうることを想定して保護者と連携が図れるように取り組み内容について周知している。	今後も継続していく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットを職員間で共有し、再発防止に向けて検討している。	今後も継続していく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		年1回以上、虐待防止研修や虐待防止委員会で適切な対応を学んでいる。	今後も継続して研修を実施し未然に防ぐ取組を実施していく。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		現在、身体拘束を行う子どもはいないが、年1回以上、身体拘束委員会でどのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて職員間で共有している。	今後も継続していく。